

たかなぎいせき
10. 高柳遺跡

所在地：福井市高柳町地係
調査原因：(新) 中藤小学校建設事業
調査期間：平成 22 年 7 月 6 日
～平成 23 年 3 月 30 日
調査主体：福井市文化財保護センター
調査面積：2,985 m²
時代：弥生時代～中世



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 高柳遺跡は福井市北方の九頭竜川左岸に位置します。調査地を概観すると、中央部が最も低い谷状の地形となっており、北・南部が微高地となっています。遺構は谷部で弥生時代の自然流路と溝、中世の水田と溝、その縁辺で弥生・古墳時代の溝や掘立柱建物、土坑が見つかりました。

弥生・古墳時代 谷地形の低位部で弥生時代末以前の自然流路が見つっています (写真 1)。流路が埋没した後、地山土を多く含む土が堆積していました。谷地形を利用するために整地を行ったと考えられます。時期は出土遺物から弥生時代末から古墳時代前期頃と考えられます。同じ頃南側の地形が谷部へ落ち込む傾斜変換地点付近に溝が掘られています (写真 1)。緩い蛇行を繰り返しながら東西に延びています。溝内からは大量の土器と共に農具などの木製品も見つっています。整地の可能性と農具の出土とを合わせて考えると、谷部で水田を営んでいた可能性が考えられます。一方、北側微高地上では溝 4 条と掘立柱建物、土坑などが見つっています (写真 2・3・4)。溝はそれぞれ切り合い関係にあり、規模、土の堆積状況、土器の出土状況に差異が認められますが、用途は判然としていません。ただ、土坑が調査区の一隅に比較的集中していることや、掘立柱建物や柱穴が北端の溝より北で見られないことから、区画を意図したものとも考えられます。

中世 溝は谷部中央に掘られ、その両脇に水田が営まれていました (写真 5)。水田は高さ 10～15 cm、幅 30～60 cm の畦畔によって囲われ、水田一枚あたりの規模は 15～73 m² を測ります。それぞれの水田には取排水するための水口が認められます。耕作土中で須恵器の細片が見つっており、平安時代には水田が営まれていたと考えられます。水田は 13～14 世紀の洪水によって一時廃絶されましたが、その後、現代に至るまで水田造成を繰り返し行っていたことが分かりました。

まとめ 旧地形が明らかになり、土地利用の一端を知ることができました。高柳遺跡では、平成 10～18 年度にかけて周辺で区画整理事業に伴い発掘調査を行っています。これまでの成果と併せて検討を進めていきたいと思ひます。 (白崎一夫)



写真1 谷部の様子（弥生・古墳時代）
自然流路（左）と溝（中央）



写真2 北側微高地の様子（弥生・古墳時代）



写真3 掘立柱建物（弥生・古墳時代）



写真4 土坑の土器出土状況（弥生・古墳時代）



写真5 谷部の様子（中世）